



オリオン座大星雲（上）とその中心部（下）
（60cm望遠鏡で撮影）



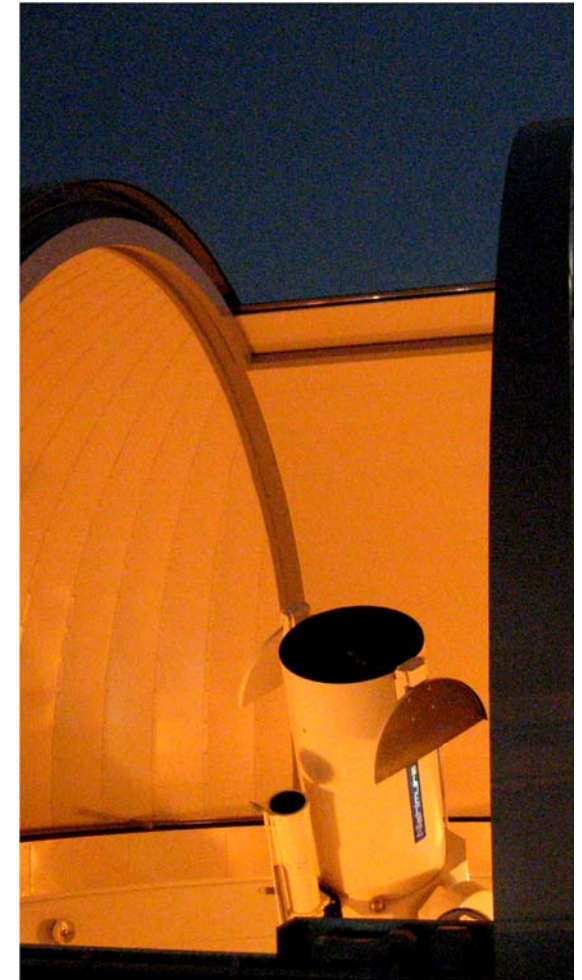
「哲学は、我々の目の前に拡げられているこの巨大な
書物、つまり宇宙に書かれている」

- ガリレオ・ガリレイ

交通アクセス | 立命館大学びわこ・くさつキャンパス



| 出発駅 | 乗り換え | 所要時間 | 備考 |
|-----------|------------------|------|---|
| 京阪 中書島駅 | 直行便バス | 約35分 | 平日 中書島発15便 大学発14便（土日は運行しません） |
| JR 大津駅 | 直行便バス | 約25分 | 平日16往復（土日は運行しません） |
| JR 大阪駅 | JR | 約50分 | JR 南草津駅 |
| JR 京都駅 | JR | 約20分 | |
| JR・近鉄 奈良駅 | JR・近鉄 (京都駅経由) | 約65分 | 近江鉄道バス 約15分 「立命館大学行き」 または 立命館大学経由 「飛鳥グリーンヒル行き」 |
| JR 三ノ宮駅 | JR | 約75分 | |

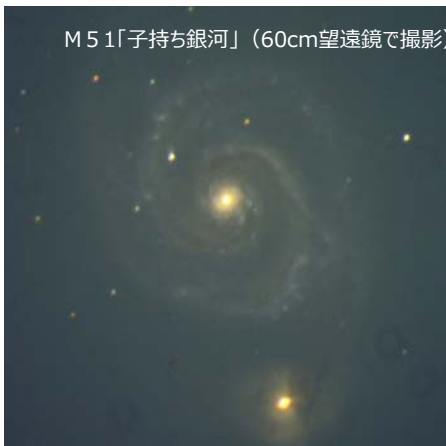


立命館大学天文台

宇宙への扉を開く

60cm反射望遠鏡

M 5 1「子持ち銀河」(60cm望遠鏡で撮影)



宇宙への扉を開く

理工系の学生に物理学という基礎的な学問に対して興味を持ち、その重要性を認識してもらうための 象徴的な施設として、2014年3月に完成した理工系新棟トリシアの屋上に天文台が設置されました。この施設により、理工学部の物理学・天体物理学の研究および教育を充実させます。

自動で開閉する直径7mのドームを備えた天文台には、大学キャンパス内に設置されるものとしては最大級の60cm口径の赤道儀式反射光学天体望遠鏡が設置されており、人間の眼に比べて非常に高い感度を持つ冷却CCDカメラを検出器として用い、さまざまな天体の観測を行います。

この天文台は、立命館大学理工学部のびわこ・くさつキャンパス移転20周年記念事業である、教育研究環境の整備のための教職員や卒業生の皆様のご寄付を活用させていただき、建設しました。

望遠鏡の性能

60cm赤道儀式反射望遠鏡は、人間の眼の7,000倍の集光力で微かな天体までとらえることができ、赤道儀式架台で地球の回転に合わせて天体を追尾して長時間の観測ができます。

主望遠鏡

- カセグレン式反射望遠鏡
- 放物面主鏡 有効径 600mm、鏡焦点距離 1,800mm
- 合成焦点距離 6,000mm (口径比F/10)

同架望遠鏡

- EDアポクロマトレンズ式屈折望遠鏡
- 有効径 150mm、焦点距離 1,200mm (口径比 F/8)

観測装置

- CCDカメラ (FLI PL16803、4096×4096画素)
- 他、順次導入

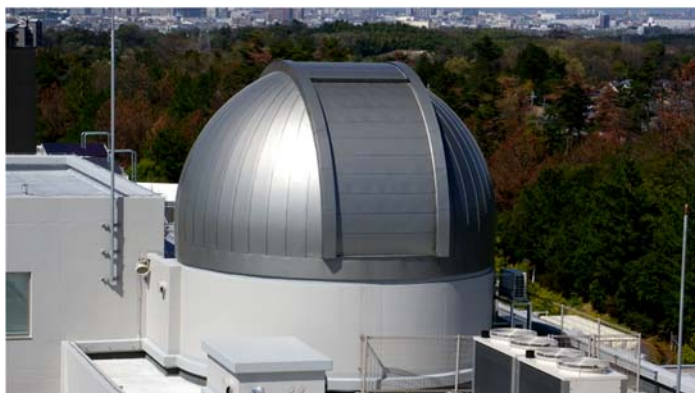
観測対象

天体望遠鏡による観測により、天体物理学の研究や、理工学部物理科学科の卒業研究や理工学研究科の修士研究が行われます。当面の観測対象としては、以下のような天体を予定しています。

- 太陽系外惑星のトランジット法 (惑星が恒星の光球面を通過する際に起こる減光を精密に測定することによって惑星を検出する) による観測
- 爆発後数日で減光するガンマ線バースト天体の残光観測
- フレアを時折起こす活動銀河の時間変動のモニター観測

これらは時間的に変動する天体なので、天候や夜間の時間帯によって大きく制限を受けるため、大型望遠鏡ではカバーできない研究対象であり、この望遠鏡の活躍が期待できます。

また、地域に開かれた天文台として、一般観望会を定期的に開くとともに、大学の天文同好会などの観測にも利用していただくことを予定しています。



理工系新棟トリシアの屋上に設置された7mドーム

お問い合わせ先

立命館大学理工学部事務室
〒525-8577 滋賀県草津市
野路東1-1-1
077-561-5747

Web サイトをご覧ください: www.ritsumeit.ac.jp/se2012/